

## 平成27年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	財務管理論 (Financial Management)		授業コード	E020301
担当教員名	吉本 圭一郎		科目ナンバリングコード	E30610
配当学年	3	開講期	前期	
必修・選択区分	選択	単位数	4	
履修上の注意または履修条件	講義には休まずに出席してください。また、計算機(電卓)を必ず持ってきてください。			
受講心得	財務管理を修得するという貪欲な気持ちで受講してください。			
教科書	最初の講義で指定します。			
参考文献及び指定図書	西澤 修著『新訂 財務管理改訂版』泉文堂 石鍋信孝著『経営に活かす財務マネージメント』産業能率大学出版部 村松司叙著『財務管理入門—三定版—』同文館 TAC出版「中小企業診断士 スピードテキスト2 財務会計			
関連科目	簿記入門, 簿記原理, 原価計算論, 管理会計論, 経営分析, 監査論			

授業の目的	財務管理とは、事業のための資金を調達し、その資金を各事業に回してリターンを得て、経営指標(企業価値)を高めていき、そしてそのために経営指標や財務指標を重要経営指標(KPI)として、その活動を管理していくことをいいます。本講義では、財務管理の理論と技法を理解することを目的としています。
授業の概要	授業では、毎回レジュメを配布し、それにそって講義を進めていきます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：財務管理総論</b> 講義のガイダンスを含め、財務管理論全体の話をしします。	配布資料 確認問題・解答
<b>第2週：制度会計</b> 財務会計と管理会計の違い、会社法・税法・金融商品取引法等の位置づけを解説します。	配布資料 確認問題・解答
<b>第3週：財務諸表(1)</b> 会社法適用をうける株式会社は、各種財務諸表の作成が義務づけられています。ここでは、その財務諸表のうち、貸借対照表について、財務管理の視点から解説します。	配布資料 確認問題・解答
<b>第4週：財務諸表(2)</b> 前回に引き続き、基本財務諸表の一つである損益計算書について、財務管理の視点から解説します。	配布資料 確認問題・解答
<b>第5週：財務諸表(3)</b> 前回に引き続き、基本財務諸表の一つである株主資本等変動計算書やこれら以外の報告書等について、財務管理の視点から解説をしていきます。	配布資料 確認問題・解答
<b>第6週：収益性分析(1)</b> 財務分析の重要な分析指標である収益性の問題について解説します。ここでは、特に収益性分析の代表的な指標である資本利益率等を解説します。	配布資料 確認問題・解答
<b>第7週：収益性分析(2)</b>	

財務分析の重要な分析指標である収益性の問題について解説します。ここでは、特に資本回転率や売上高利益率等を解説します。	配布資料 確認問題・解答
<b>第8週：これまでのまとめと確認テスト</b> 前回までの講義の内容について、まとめと確認テストを行います。 持ち込みは、筆記具、計算機(電卓)以外は不可です。	配布資料 確認問題・解答
<b>第9週：安全性分析(1)</b> 財務分析の重要な分析指標である安全性の問題について解説します。ここでは、特に安全性分析の代表的な指標である流動比率、当座比率、手元流動性比率等を解説します。	配布資料 確認問題・解答
<b>第10週：安全性分析(2)</b> 引き続き、安全性の問題について解説します。ここでは、特に安全性分析の代表的な指標である固定比率、固定長期適合率、手元流動性比率等を解説します。	配布資料 確認問題・解答
<b>第11週：生産性分析(1)</b> 財務分析の重要な分析指標である生産性について解説します。特に生産性分析の意義や付加価値の意義、売上高付加価値率の算定や労働生産性分析等を解説します。	配布資料 確認問題・解答
<b>第12週：生産性分析(2)</b> 引き続き、生産性について解説します。ここでは、特に労働装備率や設備生産性等を解説します。	配布資料 確認問題・解答
<b>第13週：資本調達(1)</b> ここでは、企業の資本調達の種類を解説します。第一回目は、株式発行等の直接金融について解説します。	配布資料 確認問題・解答
<b>第14週：資本調達(2)</b> 引き続き資本調達の中でも、間接金融や内部調達等について解説します。	配布資料 確認問題・解答
<b>第15週：これまでのまとめと確認テスト</b> 前回までの講義の内容について、まとめと確認テストを行います。 持ち込みは、筆記具、計算機(電卓)以外は不可です。	配布資料 確認問題・解答
<b>第16週：資本運用(1)</b> ここでは、企業が調達した資本をどのように運用したらよいかについて解説します。ここでは、特に投資の意義や経済性計算について、解説をします。	配布資料 確認問題・解答
<b>第17週：資本運用(2)</b> 前回到続き資本運用の経済性計算について解説します。特に正味現在価値法(NPV)や内部収益率法(IRR)等について解説します。	配布資料 確認問題・解答
<b>第18週：資本運用(3)</b> 前回到続き資本運用の経済性計算について解説します。特に収益性指数法(PI)や回収期間法(PP)等について解説します。	配布資料 確認問題・解答
<b>第19週：資本運用(4)</b> 前回到続き資本運用の経済性計算について解説します。特に法人税を考慮した正味現在価値法、タックスシールド等について解説をします。	配布資料 確認問題・解答
<b>第20週：資本コスト</b> 資本コストの意義とは何かについて解説します。財務的意思決定において資本コストが果たす役割は重要性がありますので、その具体的な算定方法等を学びます。	配布資料 確認問題・解答
<b>第21週：財務計画(1)</b> 企業の財務計画として、予算や損益分岐点の基本的な考え方について解説します。	配布資料 確認問題・解答
<b>第22週：財務計画(2)</b> 財務計画の第二回目として、損益分岐点の計算問題や固定費分解等について解説します。	配布資料 確認問題・解答

<b>第23週：これまでのまとめと確認テスト</b>		
前回までの講義の内容について、まとめと確認テストを行います。持ち込みは、筆記具、計算機(電卓)以外は不可です。		配布資料 確認問題・解答
<b>第24週：運転資産(1)</b>		
現金資金の管理や売上債権の管理等について解説します。		配布資料 確認問題・解答
<b>第25週：運転資産(2)</b>		
企業が棚卸資産を取得するために、資本を投入するのが在庫投資です。ここでは、最適発注量(EOQ)の算定方法等について、解説します。		配布資料 確認問題・解答
<b>第26週：株価の算定(1)</b>		
ここでは、株価の算定モデルについて解説します。特に、配当割引モデル(DDM)や株価に関する各種指標(配当性向、株価収益率、株価純資産倍率)等について解説します。		配布資料 確認問題・解答
<b>第27週：株価の算定(2)</b>		
引き続き株価の算定モデルについて解説します。ここでは特に、株価算定計算モデルの計算問題を中心に解説します。		配布資料 確認問題・解答
<b>第28週：債券価格の算定</b>		
ここでは、債券の種類等について解説します。特に、割引債(ゼロクーポン債)や利付債(クーポン債)、単利計算や複利計算等について解説します。		配布資料 確認問題・解答
<b>第29週：企業価値の算定(1)</b>		
企業価値について解説します。特に、フリーキャッシュフローを用いた企業価値の算定方法等を解説します。		配布資料 確認問題・解答
<b>第30週：企業価値の算定(2)</b>		
前回到続いて、企業価値について解説します。特に、純資産額法や収益還元法などの企業価値算定方法を解説します。		配布資料 確認問題・解答
<b>第31週：期末試験</b>		
これまでの講義の内容について、期末テストを行います。持ち込みは、筆記具、計算機(電卓)以外は不可です。		
<b>授業の運営方法</b>	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
<b>地域志向科目</b>	該当しない	
<b>備考</b>	質問等はEメールでも受け付けます。	

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	財務管理の意義・目的について説明できる。
<b>【知識・理解】</b>	財務管理に用いる代表的な分析指標に関する基礎知識が身についている。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	財務管理に関する代表的な分析指標を使いこなすことができる。
<b>【思考・判断・創造】</b>	企業の財務管理に関して論理的に考察できる。

<b>○成績評価基準(合計100点)</b>			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	

<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点	
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	70点		
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		10点	
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。		10点	

**(「人間力」について)**

※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

**○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安**

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	授業時に課題やレポートを出しますので、積極的に取り組んでください。
発表・その他 (無形成果)	授業に欠席したり、遅刻早退せずに意欲的に取り組んだ場合は、評価の対象とします。